

令和4年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：根室地区
- 2 事例報告学校名：羅臼町立羅臼小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 西田 威 嗣
- 4 キーワード：地域連携 幼小中高が連携した「知床学（海洋教育）」の取組事例

1 はじめに

世界遺産「知床」内に位置する本地域は、漁業を主幹産業として発展してきたが、漁獲高の減少により、人口の流出が顕著となった。2007年から、高校存続を目標とした「中高一貫教育」が導入されると同時に、知床が世界自然遺産に登録されたことから「中高一貫教育」を推進するための3つの柱の一つとして「知床学」が誕生した。2012年には、ユネスコスクールへの加入により、「知床学」はESDへと再編された。羅臼小学校では、昆布学習を特色あるテーマとして学びを進めてきたが、学んだことを発信する力に課題があると考え、ICTを有効に活用したアウトプットする力を身に付けるよう全校で取り組んでいるところである。

2 実践の概要

(1) 幼小中高一貫教育で取り組む「知床学」

羅臼町では、「知床らうすの環境教育～自然遺産の環境下で持続可能な教育への挑戦～」として、各教科等との関連を図りながら、地域の教育資源を活用している。特に、「ふるさと羅臼」を包括的に捉える「知床学」（海洋教育）の学習を通して、SDGsの17の目標を重点とし、総合的な学習の時間に環境教育として位置付け、幼小中高の15年間を見通したカリキュラムを編成し、教育活動を展開している。

「知床学（海洋教育）」 <令和4年度>		羅臼町立羅臼小学校													
学年	幼稚園	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3		
ESD ユネスコスクールに認定され、ESD (Education for Sustainable Development)を推進しています【ESDの領域：持続可能な発展のための教育】															
学習の主体性 知床伝道や体験から 自ら考え行動する学習活動へ															
学習の主体性	In Nature (知床) 体験(知床)の中で体験、感じる														
	In Nature (知床) 体験(知床)の中で体験、感じる			About 知床 For 知床			In 知床 About 知床 For 知床			In 知床 About 知床 For 知床					
学習内容	・身近な動植物に関心をもち、ふるさと自然のすばらしさを伝える。・地域の歴史や暮らしについて学ぶ。・自然の恵みや恵みについて学ぶ。・自然の恵みや恵みについて学ぶ。			・知床の自然、生活、文化などに興味を持ち、ふるさと自然のすばらしさを伝える。・地域の歴史や暮らしについて学ぶ。・自然の恵みや恵みについて学ぶ。			・知床の自然、生活、文化などに興味を持ち、ふるさと自然のすばらしさを伝える。・地域の歴史や暮らしについて学ぶ。・自然の恵みや恵みについて学ぶ。			・知床の自然、生活、文化などに興味を持ち、ふるさと自然のすばらしさを伝える。・地域の歴史や暮らしについて学ぶ。・自然の恵みや恵みについて学ぶ。			・知床の自然、生活、文化などに興味を持ち、ふるさと自然のすばらしさを伝える。・地域の歴史や暮らしについて学ぶ。・自然の恵みや恵みについて学ぶ。		
実施内容	・自然の恵みや恵みについて学ぶ。・自然の恵みや恵みについて学ぶ。・自然の恵みや恵みについて学ぶ。			・自然の恵みや恵みについて学ぶ。・自然の恵みや恵みについて学ぶ。・自然の恵みや恵みについて学ぶ。			・自然の恵みや恵みについて学ぶ。・自然の恵みや恵みについて学ぶ。・自然の恵みや恵みについて学ぶ。			・自然の恵みや恵みについて学ぶ。・自然の恵みや恵みについて学ぶ。・自然の恵みや恵みについて学ぶ。			・自然の恵みや恵みについて学ぶ。・自然の恵みや恵みについて学ぶ。・自然の恵みや恵みについて学ぶ。		
評価	・自然の恵みや恵みについて学ぶ。・自然の恵みや恵みについて学ぶ。・自然の恵みや恵みについて学ぶ。			・自然の恵みや恵みについて学ぶ。・自然の恵みや恵みについて学ぶ。・自然の恵みや恵みについて学ぶ。			・自然の恵みや恵みについて学ぶ。・自然の恵みや恵みについて学ぶ。・自然の恵みや恵みについて学ぶ。			・自然の恵みや恵みについて学ぶ。・自然の恵みや恵みについて学ぶ。・自然の恵みや恵みについて学ぶ。			・自然の恵みや恵みについて学ぶ。・自然の恵みや恵みについて学ぶ。・自然の恵みや恵みについて学ぶ。		
その他	ユネスコスクールの活動														

(2) 羅臼の人、自然、産業を生かした6年間を見通した環境教育

第1・2学年では、幼稚園からの学びをつなぎ、地域の自然や仕事について、活動を通じて学んでいる。第2学年では、漁協・地域住民からの鮭の生態や稚魚を放流する意味について説明を受け、稚魚放流を行った。秋には、回帰して来る鮭を、羅臼川にて捕まえる様子も観察し、第5学年での鮭の有効活用（鮭フレックづくり）につなげ、海の豊かさや、羅臼の環境について興味をもつことができた。



稚魚放流で鮭の生態を学ぶ

第3学年では、知床財団職員の方をお招きして「熊学習」に取り組み、クマとの共生やクマと遭遇したときの危機回避の仕方を学ぶなど、羅臼町の特性を生かした学習をしている。



川探検での水棲動物の探究

第4学年では、羅臼川探検を行い、羅臼の豊かな海洋資源は、山や川からの栄養分が大きく関わっていることを実感した。また、CSの協力の下、ホッケのかまぼこづくりを体験し、地域の産業や食文化を体験した。



道の駅でのインタビュー活動

第5学年は、地域の名産品である羅臼昆布を題材とした「昆布学習」に取り組んでいる。昆布について、漁協・漁師から聞いたこと、調べたことをもとに昆布図鑑を作成している。

第6学年は、小学校で学んだことを生かし、羅臼のよさを調べ、ふるさと羅臼を多角的に捉えて、地域や全国に発信する取組を行っている。町内の観光に関する施設を訪れ、対話を通して、よさを再発見する取組を行った。

このように、「知床学」のカリキュラムに基づいて、各学年が様々な活動を通して、海洋資源や持続可能なまちづくりについて、学習を深めている。

(3) 「知床学」の地域・全道、全国への発信

本校では、6年生がユネスコスクールの発表会に参加し、下学年の取組について、地域や保護者、小中高に発表している。それと同時に、他の学校の取組を聞き、羅臼町全体の「知床学」の取組についての学びを深めることができる。



ユネスコスクールでの発表

また、調べたことは、第6学年を中心に、SNSのインスタグラムによる情報発信を令和3年度から始めている。羅臼町だけでなく、羅臼小学校に興味をもっているフォロワーに羅臼のよさを伝えている。子どもたち目線からの発信は、新鮮であり、保護者やフォロワーからの評判も上々である。右の、QRコードから読み取れば、閲覧することが可能である。

3 おわりに

「知床学」は、全道でも珍しい幼小中高が一貫して取り組む教育カリキュラムである。地域や保護者、CSの協力の下、児童が自ら課題を見付け、探究的な学習を行うことで、持続可能なまちづくりにつなげたい。また、インスタグラムによる発信は、様々なところからリアルタイムで反応があり、児童の意欲が高まってきたことを実感している。

